

新聞報道に基づいた交通事故の統計的分析

Study on Statistical Analysis of Traffic Accidents
Reported in Newspaper

堀 井 雅 史*
By Masafumi Horii

Road traffic during the snow season is influenced by weather conditions. Furthermore, traffic accidents occur on roads due to snow and ice. However, it is difficult to get full information about relations between traffic accidents and weather conditions from existing statistical data. In this paper, the author collected articles of traffic accidents which were reported in a local newspaper in Fukushima prefecture, and constructed database on them. Moreover, comparing the data published by Fukushima prefecture and prefectural police headquarters with the articles, the author examined the tendency of traffic accidents reported in a newspaper. Finally, the author investigated the feature of the traffic accidents during the snow season.

1. はじめに

近年のわが国における交通事故、特に死亡事故の増大は、大きな社会問題に発展してきており、第二次交通戦争とまで言われるようになってきた。交通事故の増大は東北地方においても同様であり、この問題に対する早急な対策が必要である。このためにはまず交通事故の実態を把握できるような統計資料の収集が重要であるが、分析に用いるだけの詳細な情報の入手はきわめて困難であるのが現状である。特に東北地方はわが国有数の積雪寒冷地帯の一つであり、気象条件によって交通事故の発生特性が他の地域と異なっていると考えられ、気象条件と交通事故の関係についての分析が必要である。

筆者は、新聞報道が容易に入手できる情報源であ

り、一日のうちに発生した事故の中でも特徴的な事故を報道していると考えられることから、東北6県の地方新聞で報道された交通事故の記事を基に交通事故と気象の関係について分析を行い、東北地方における冬期交通事故の実態を示すとともに、さらに気象条件との関係を示した¹⁾。

本研究は、福島県の地方新聞に報道された交通事故の記事と福島県交通白書による集計データとの比較を行い、交通事故に関する新聞報道の傾向について分析を行ったものである。

2. 資料および分析方法

収集した資料は、昭和62年1月1日から平成元年4月30日までの2年4カ月間に福島県の地方新聞に掲載された交通事故に関する記事²⁾および福島県の気象月報³⁾である。これらの資料に対してデータベースを構築し、単純集計、クロス集計を行った。この結果と昭和63年版福島県交通白書⁴⁾に掲載さ

* 正会員 工博 日本大学工学部土木工学科
(〒963 郡山市田村町徳定字中河原1)

れている各項目ごとの集計結果と比較することによって、交通事故の報道傾向について分析を行った。さらに福島県における冬期交通事故の特性について考察を試みた。なお、分析に使用したデータは、交通白書との比較のため人身事故のみである。

3. 新聞報道に関する分析結果

図-1には、昭和62年の福島県における月別交通事故報道件数、月別交通事故総件数を示す（以下交通白書の資料を事故総件数と呼ぶことにする）。これによると、昭和62年には407件の交通事故報道があり、事故総件数は9,741件であった。月別にみると、3、8、9、10月の事故報道が多く、1月が少なくなっている。事故総件数については、1月から12月へ一部増減があるものの増加傾向にある。報道件数と発生件数を比較すると、3、6、12月に双方ともピークが現れており、同様の傾向を示している。ただし事故総件数では9月に減少しているのに対して、報道件数においては増加しており、傾向が異なっているが、8、9、10月は他の月と比べて、事故件数が多くなっている点では同様である。

報道率（報道件数／事故総件数）については、2、3月が5%台と高く、4、6、9月が4%台、残りの月が3%台となっている。

図-2は、事故の程度別に分類集計し、その報道率を示したものである。これによると、死亡事故が最も多く報道されており、その報道率は99%に達する。重傷事故では報道率が約8%であり、軽傷事故は1%にも満たない。死亡、重傷事故をあわせた重大事故で全報道件数の86%を占め、新聞報道の関心が重大事故にあることがわかる。

図-3は、道路種別でみた事故総件数と報道件数それぞれの構成比を示したものである。これによると実際には市町村道で交通事故が最も多く発生しているが、国道、県道（主要地方道を含む）での事故の方が多く報道されており、新聞報道の関心がこれらの重要幹線にあることがわかる。また東北自動車道は事故の報道率が高い。

図-4は、事故総件数と報道件数について事故原因別に集計し、その構成比を示したものである。な

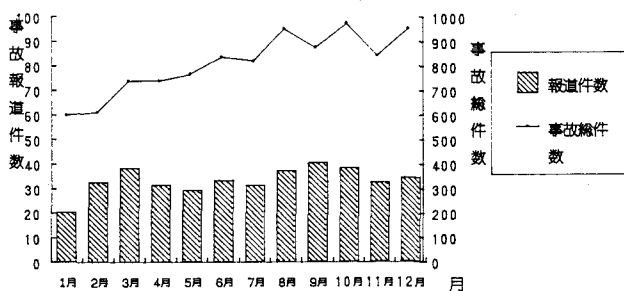


図-1 昭和62年交通事故報道件数と総件数

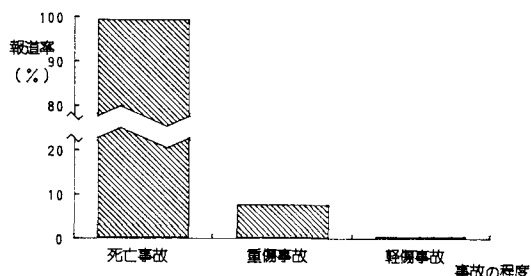


図-2 事故程度別の報道率

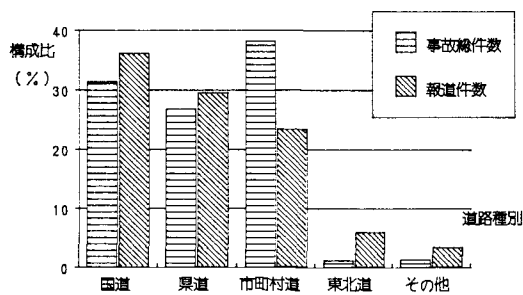


図-3 道路種別事故総件数と報道件数の構成比

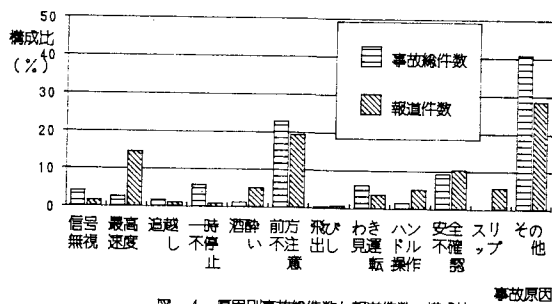


図-4 原因別事故総件数と報道件数の構成比

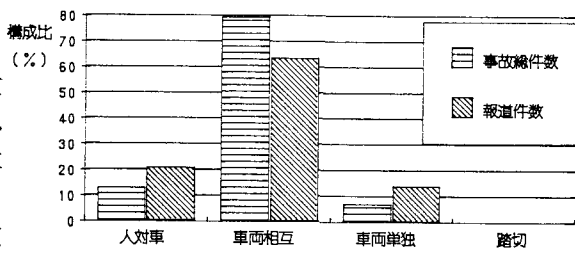


図-5 類型別事故総件数と報道件数の構成比

お事故総件数の場合は違反件数の構成比を載せてある。これからわかるとおり、前方不注意、安全不確認が原因である事故が多く、事故報道においても同様である。また、最高速度、酒酔い運転に関しては、事故総件数に比べて事故報道の割合が高く、これらが原因の事故は多く報道されているようである。なおスリップに関しては、違反にはないが冬期交通事故の特徴であり、報道件数も多かったことから合わせて載せてある。

図-5は、事故類型別に事故総件数と報道件数を分類集計したものである。両者とも同様な分布を示しているが、人対車、車両単独に関しては報道の割合が高い。

図-6は、事故総件数と報道件数の運転者年齢別構成比を示したものである。これによると両者とも同様の分布をしており、20才台の交通事故が多く発生している。なお、10才台の事故は報道の割合が比較的高い。

図-7は、事故発生時間帯別の構成比を示す。これによると、深夜に発生した交通事故に関しては多く報道されていることがわかる。

図-8は天候と交通事故の関係を示す。気象のデータは、福島県の各気象台および測候所での観測結果であり、そこでの値は事故現場の気象条件と必ずしも一致しない。しかしこれらの測定結果は、ある程度広域的な資料であると考えることができ、しかもその日の傾向が把握できることから、事故発生場所に最も近い観測地点におけるデータを資料として用いた。この図より、晴れでの事故の報道率は低いが、雨や雪など天候が悪化していると報道率が高いことがわかる。

以上のように、新聞による交通事故報道は、重大事故や重要幹線での報道が多く、気象条件が悪化している場合、あるいは発生状況が特徴的な場合、たとえば深夜に発生した事故とか原因がスピードの出しすぎ、飲酒運転、スリップの事故などにおいても報道される可能性が高いという傾向を有していると推測できる。また、概観的には実際の交通事故と同様な分布を示していると考えられることより、重要な情報源であると考えられる。

4. 冬期交通事故に関する分析結果

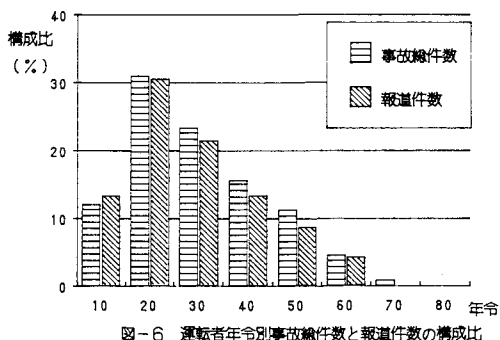


図-6 運転者年齢別事故総件数と報道件数の構成比

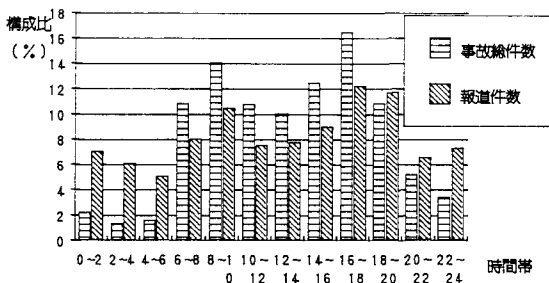


図-7 時間帯別事故総件数と報道件数の構成比

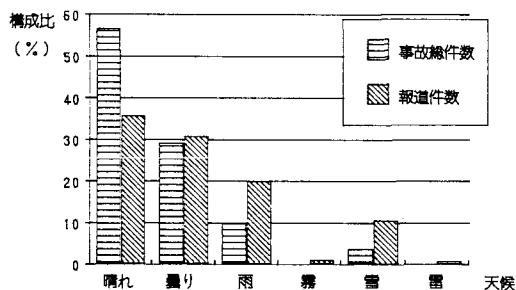


図-8 天候別事故総件数と報道件数の構成比

ここでは、福島県の62年度と63年度の冬期間(12月から3月まで)に報道された交通事故についての分析結果を示す。

図-9は冬期の各月に報道された交通事故を程度別に集計したものである。これによると、昭和62年度は3月と12月に事故報道が多く、厳寒期よりも移行期において多く報道されている。これは実際の交通事故発生現象においても認められる傾向である⁵⁾。63年度は3月に事故報道が多いが、62年度と異なり、12月、1月であまり差がない。程度別でみると、死亡事故は両年度とも3月に多く、62年度はその他の事故がさほど変化していないことより、死亡事故の増減がそのまま全報道件数の増減となっている。63年度は死亡事故は3月を除くとさほど変化しておらず、重傷事故の変動によるもの

と考えられる。

図-10は報道事故を原因別程度別に分類集計したものである。62年度においては、前方不注意が原因の事故が多く、その他はほぼ同程度である。死亡事故の割合が高いのはスピードの出しすぎ、居眠りかわき見運転である。63年度は、62年度と同様に前方不注意が最も多く、スピードの出しすぎが原因の事故は死亡事故につながる可能性が高い。またスリップ事故については全報道件数が死亡事故であった。

図-11は、報道事故の程度を最低気温のランク別に集計したものである。62年度では、最低気温が -5.0°C から -0.1°C の間で死亡事故が最も多く報道されているのに対し、63年度では -5.0°C から -0.1°C と 0.0°C から 4.9°C で同程度の死亡事故が報道されている。つまり、死亡事故発生の最低気温帯が広がっているといえる。これは、各年度の気象条件の違いによると考えられる。

5. まとめ

本研究は、交通事故に関する新聞報道の傾向について分析を行ったものである。得られた結果を総括すると以下のとおりである。

- 1) 全交通事故のうち新聞で報道される可能性が高いものは、重大事故か、発生場所が重要幹線であること、または、気象条件が悪化している場合、あるいは発生状況が特徴的な事故は多く報道されているようである。また、概観的には実際の交通事故と同様な分布を示していると考えられる。
- 2) 新聞報道に基づいて福島県の冬期交通事故について分析した結果、交通事故は、厳寒期よりも移行期において多く報道されていることがわかった。この傾向は実際の交通事故発生でも同様である。また、死亡事故は最低気温が氷点下で半数以上発生していることが確認できた。

本研究においては、交通事故を新聞報道という一側面でもとらえている点で現実の現象を把握するには問題点があると考えられるが、詳細な情報の入手が困難である以上貴重な情報源であると考えられる。今後さらに分析を行い、冬期の交通事故問題を検討

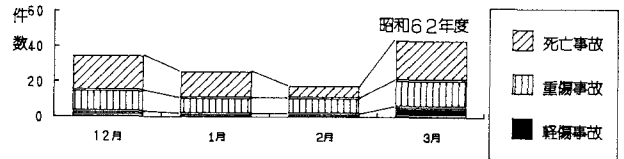


図-9 事故程度別月別報道件数

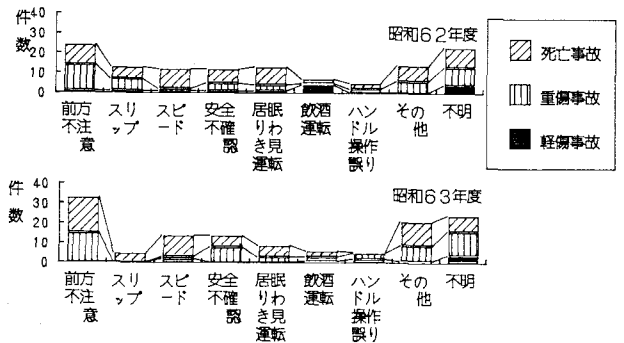


図-10 事故程度別原因別報道件数

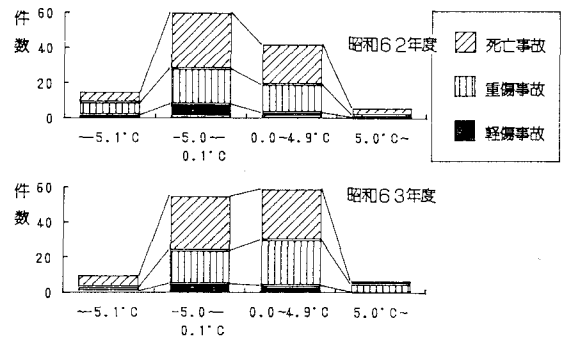


図-11 事故程度別最低気温別報道件数

していくことは大切であると思われる。

参考文献

- 1) 堀井雅史・村井貞規：東北地方における冬期交通事故に関する調査研究，日本雪工学会誌，第6巻3号掲載予定。
- 2) 福島民報。
- 3) 日本気象協会：福島県気象月報。
- 4) 福島県・福島県警察本部：昭和63年交通白書。
- 5) 村井貞規・堀井雅史：東北地方の交通事故特性について，東北地域災害科学研究，第26巻，pp 39~42，1990。